



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和4年1月28日

第10号



「どうして獲れなくなったか気になりました。」

校長 神田 敏之

3年生以上の子どもには、家庭学習で決められた課題のほかに自主学習に取り組むようにしています。この子どもは『ニシンについて』というテーマで書きました。次のようなことを調べた感想が冒頭の言葉です。

ニシンは、ニシン目、ニシン科、ニシン属に属します。サイズは全長 35cm です。かつては民謡「ソーラン節」にうたわれ「ニシン御殿」が建ったといわれるほどよく獲れたニシンですが、現在はほとんどが加工された輸入物。鮮魚、切り身は東北、北海道で水揚げされたものが店頭に並びます。(以下略)

本をパラパラとめくって、気になったことを調べているそうです。日々の生活の中でいろいろなことに興味関心をもっていること(私たちはよくアンテナを立てると表現します)が調べるきっかけになります。本校では5・6年生が運動会でソーラン節の演技をしています。このような背景を知っていて演技をするのも大切なことだと思います。

「大なわとびのコツ」

入り方

1. 回し手のとなりで待つ。
2. なわが下についたら走り出す。
3. なわが上に上がったタイミングで入る。
4. 前にとぶイメージで入る。

ぬけ方

1. ジャンプして着地したら回している人の横をぬける。
(できるだけ近めにぬける)
2. ちょっと高めにとぶことをいしきする。

大なわとびの回すコツがこの後に続いています。

この子どもは、長縄集会に向けて学級で練習をしていることからとび方についてまとめています。とべない人に説明をするために、自分がどのようにしてとべているかを振り返り、文に書き表すということに挑戦しています。これは自分の体の動きを分析するために、視点を外にもつという高度なことをしています。学校では、日々の生活や学習の中で「ふりかえり」をすることによって子どもたちに自分を客観的にみる力を付けています。

私たちは学習の中で「ほかの人に教えることができるようになったら、本当に理解できたこと」として子どもたちに指導をしています。「できた」「できない」だけの知識や技能はそれを活用することが難しいです。「生きて働く知識・技能」を身に付けることを目指しています。そのためにも主体的に学習に取り組む態度を育てることを大切に考え、これからも自主学習の取り組みを続けていきます。